

《第145回》 令和七年七月の作品

〈七月十一日（金） 文京区民センター3B〉

緑陰に赤子をあやす母の声
（一江）

毛越寺の浄土庭園山滴る
（孝昭）

星なくも赤き三日月夏至の夜
（奉男）

年嵩の我納涼の音頭とる
（正佳）

郷里より不出来ですがとさくらんぼ
（貴美）

酷暑なり終日暇を持て余す
（隆治）

打球音の吸い込まれ行く木下闇
（前歩）

梔子は謙虚な花や鄙の家
（正雄）